環境省

第９回 湿原再生小委員会

２．議事

５）釧路湿原面積について

１　経緯について

第3回　湿原再生小委員会（平成17年5月11日開催）において

・過去の釧路湿原の面積や範囲を明確にする。

・現在の釧路湿原の面積や範囲を明確にする。

第6回　湿原再生小委員会（平成22年9月2日開催）において

様々な機関や環境省の調査データを利用し、釧路湿原の面積算定について報告

・最外郭：399.8 ㎢（1921年（大正10年））

・現在：219.6 ㎢（2004年（平成16年））

第9回　湿原再生小委員会（平成23年10月20日開催）において

・第6回湿原再生小委員会における質問・確認事項への回答

・釧路湿原の面積算定方法の確定

２　釧路湿原面積調査に使用した各種データ

「釧路湿原面積」を算定するために、下記の調査データを利用した。

使　用 データ	1	2	3	4
	釧路国 泥炭分布図	釧路湿原 植　生　図	環　境 土地利用図	航空写真
作成機関	北海道 農業試験場	環境省 釧路自然環境事務所	環境省 釧路自然環境事務所	環境省 釧路自然環境事務所
作成年度	1956年 （昭和31年）	2004年 （平成16年）	2008年 （平成20年）	2004年、2006年 （平成16,18年）
使用目的	過去の湿原域の確認	湿原植生域の把握	釧路川流域に含まれる、非湿原域を抽出し除外	・地形変換線の確認 ・植生（樹冠を確認し針葉、広葉）確認することで、湿原植生を確認

３　釧路湿原面積の算定方法

① 過去（最外郭）の湿原域を把握

Ⅰ 航空写真（地形傾斜変換線を抽出）
※不明瞭な場所は植生にて判読

Ⅱ 釧路国泥炭分布図（Ⅰで判読不可の箇所で利用）

② 現在の湿原域を把握

Ⅰ 植生図（湿原域を抽出）

Ⅱ 環境土地利用図（人為的な地域を除外）

Ⅲ 航空写真（Ⅱで判読できないエリアの湿原植生を抽出）

3① 過去（最外郭）の湿原域を把握
Ⅰ　航空写真（地形傾斜変換線の抽出）

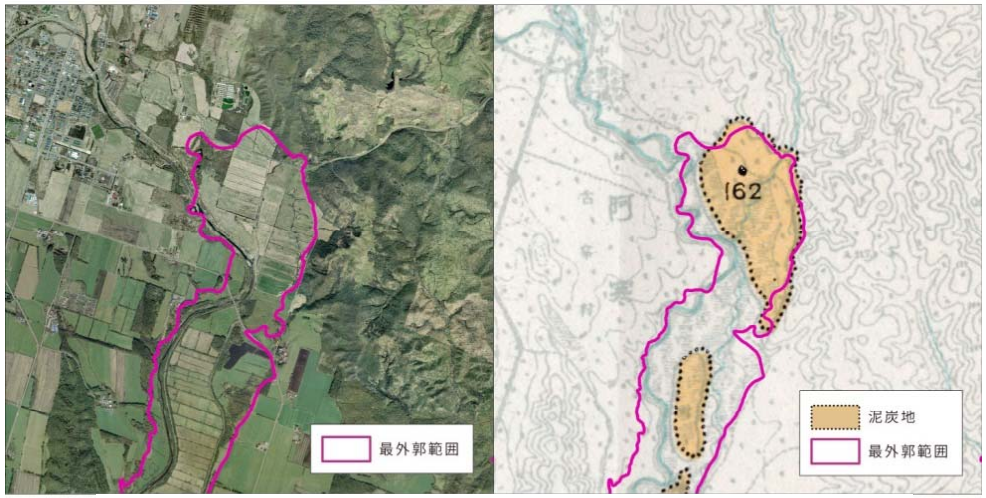
● 航空写真から地形変換線を判読する
低平地と傾斜地の変換線を航空写真から判読し「湿原域」を把握する
※不明瞭な場所は植生にて判読

3① 過去（最外郭）の湿原域を把握
Ⅱ　釧路国泥炭分布図

地形傾斜変化線が不明瞭で、
植生でも判読ができない場合

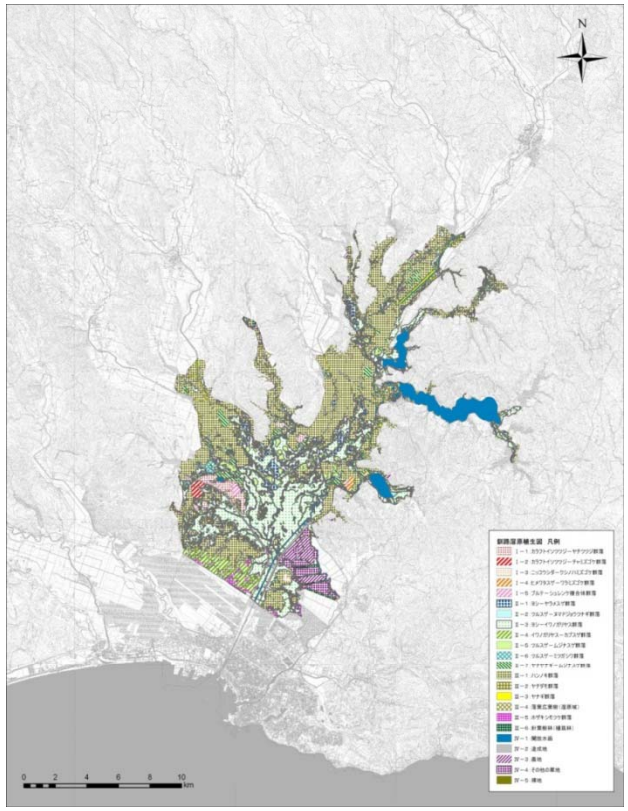
土地利用が進み、地形傾斜変化線が不明瞭な場所は
釧路国泥炭地分布図より最外郭を判読

▼



かつて泥炭地だった範囲が湿原範囲となるよう最外
郭を設定

3② 現在の湿原域を把握
Ⅰ植生図（湿原域を抽出）



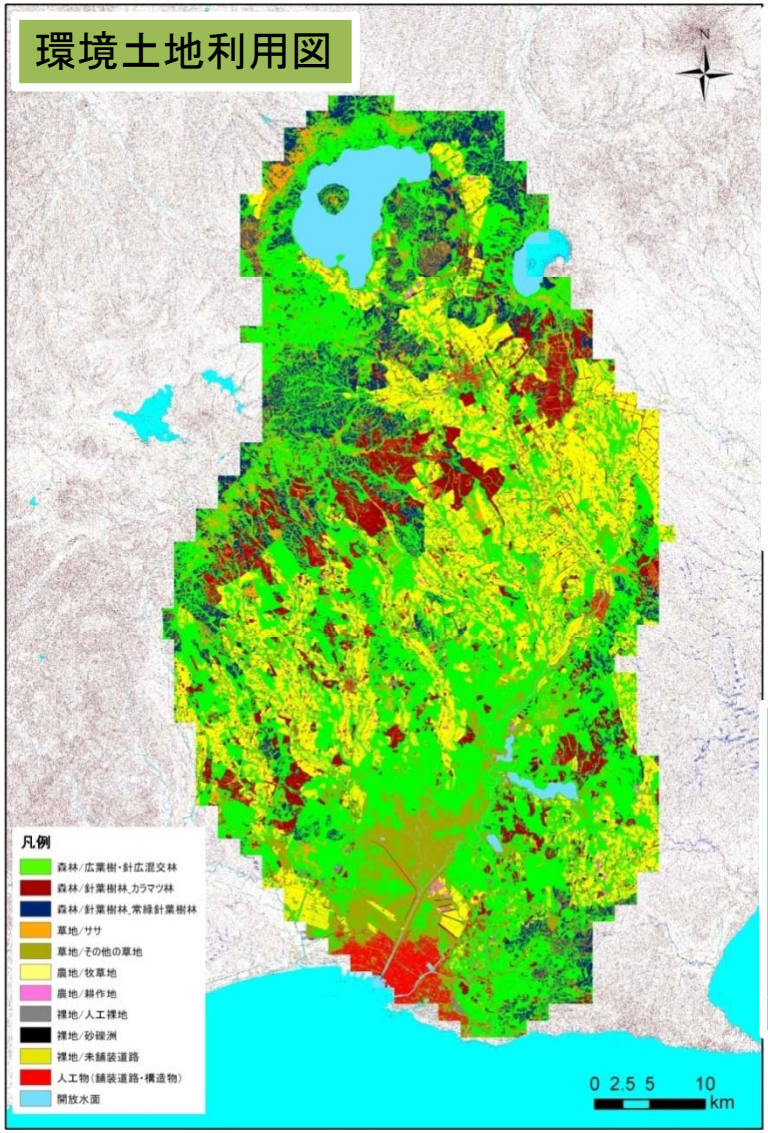
釧路湿原植生図　凡例

- Ⅰ－1：カラフトイソツツジ－ヤチツツジ群落
- Ⅰ－2：カラフトイソツツジ－チャミズゴケ群落
- Ⅰ－3：ニッコウシダ－クシノハミズゴケ群落
- Ⅰ－4：ヒメワタスゲ－ワラミズゴケ群落
- Ⅰ－5：ブルテ－シュレンケ複合体群落
- Ⅱ－1：ヨシ－ヤラメスゲ群落
- Ⅱ－2：ツルスゲ－ヌマドジョウツナギ群落
- Ⅱ－3：ヨシ－イワノガリヤス群落
- Ⅱ－4：イワノガリヤス－カブスゲ群落
- Ⅱ－5：ツルスゲ－ムジナスゲ群落
- Ⅱ－6：ツルスゲ－ミツガシワ群落
- Ⅱ－7：ヤチヤナギ－ムジナスゲ群落
- Ⅲ－1：ハンノキ群落
- Ⅲ－2：ヤチダモ群落
- Ⅲ－3：ヤナギ群落
- Ⅲ－4：落葉広葉樹（湿原域）
- Ⅲ－5：ホザキシモツケ群落
- Ⅲ－6：針葉樹林（植栽林）
- Ⅳ－1：開放水面
- Ⅳ－2：造成地
- Ⅳ－3：農地
- Ⅳ－4：その他の草地
- Ⅳ－5：裸地

→ 湿原域

● 環境省
平成16年度自然再生事業
釧路湿原植生調査

3② 現在の湿原域を把握
Ⅱ 環境土地利用図（人為的な地域を除外）



◆ 非湿原域を除外する

「凡例から」
- １ 農地（牧草地）
- ２ 農地（耕地）
- ３ 裸地（人工裸地、構造物）
- ７ 開放水面
- ８ 森林（広葉樹、針広混交林）
- ９ 森林（針葉樹、カラマツ林）
- １０ 森林（針葉樹、常緑針葉樹林）
- １１ 人工物

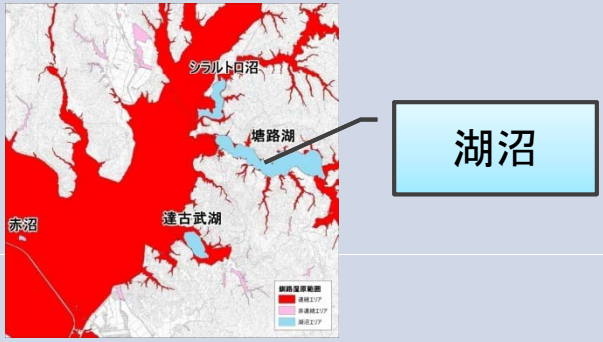
◆「湿地林、湿原植生」の可能性を抽出

８ 森林（広葉樹、針広混交林）は、『湿地林』を含んでいる可能性があるので、その範囲を抽出

１、２ 草地（ササ、その他草地）には『湿性草地』を含んでいる可能性があるので、その範囲を抽出

4 湿原エリア区分

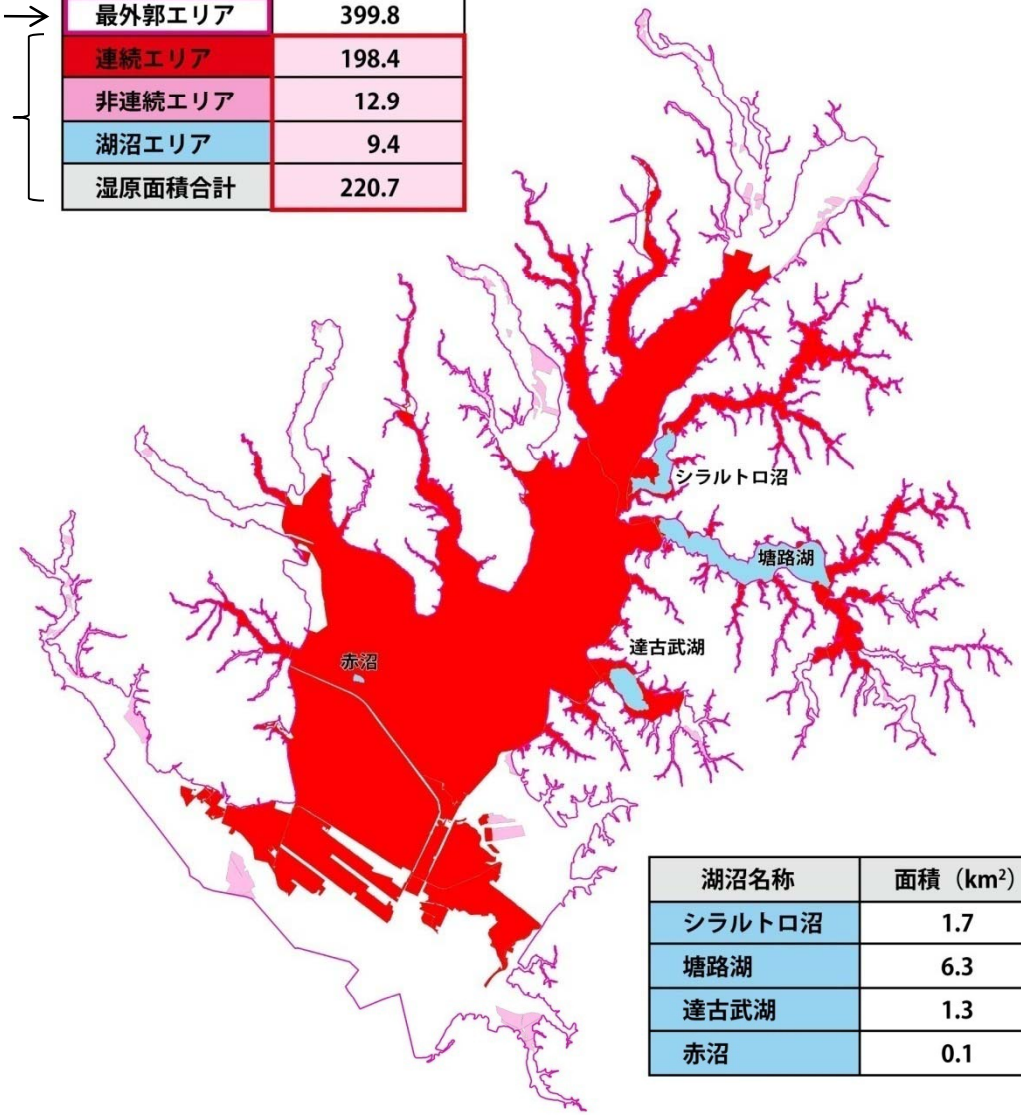
◆ 現在の湿原エリアは、湿原域が3つのグループに区分されている
① 連続エリア
② 非連続エリア
③ 湖沼エリア

エリア区分	説明	図の説明
連続エリア	釧路湿原の核心部であり、連続してまとまっている湿原	
非連続エリア	連続エリアとの間に耕作地や人口裸地など人為的な土地利用が行われ、連続性が失われてしまっている湿原	
湖沼エリア	シラルトロ湖、塘路湖 達古武湖、赤沼	

５湿原面積の計算

1921年（大正10年）
2004年（平成16年）

エリア	面積（km²）
最外郭エリア	399.8
連続エリア	198.4
非連続エリア	12.9
湖沼エリア	9.4
湿原面積合計	220.7



湖沼名称	面積（km²）
シラルトロ沼	1.7
塘路湖	6.3
達古武湖	1.3
赤沼	0.1

第6回湿原再生小委員会における確認事項への回答

Q1. 仁仁志別川の流域を釧路湿原の面積に入れた理由

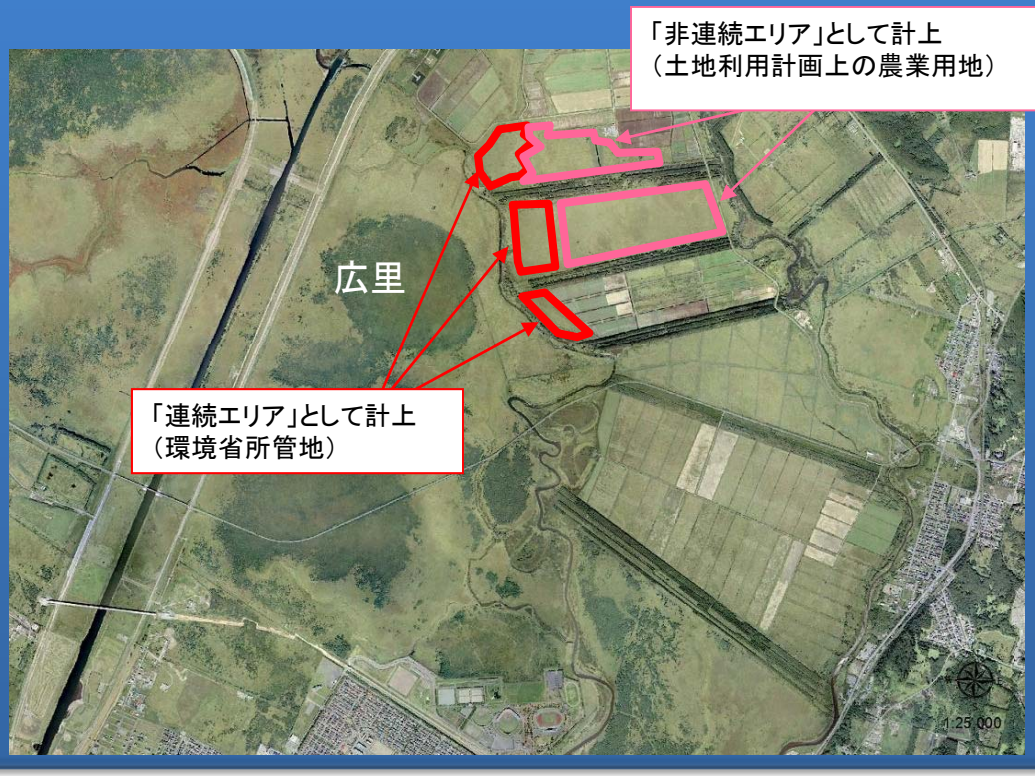
A1. 全体構想において流域は決まっており、仁仁志別川を入れることとなっています。

Q2. 湿性林は釧路湿原の面積算定されているか否か

A2. 植生図・写真判読・現地調査により確認し、湿性林については面積に含めています。

Q3. 広里地区の旧雪裡川を挟んで東側の湿原植生が残っている短冊形の範囲が面積に含まれていない理由

A3. 当該地域を現地確認し、湿原植生が残っている箇所については面積に含めることとしました。（約1.1k㎡）



対象箇所の状況
・水位の下がったヨシ、スゲ湿原
（ヨシ、イワノガリヤス、エゾオオヤマハコベ、サワギキョウ、ヤラメスゲ等）

参考．現地調査箇所

土地利用図や写真判読で湿原か否かを判読できない植生（主に湿性林）については、現地調査で下層植生を確認した上で判定している。

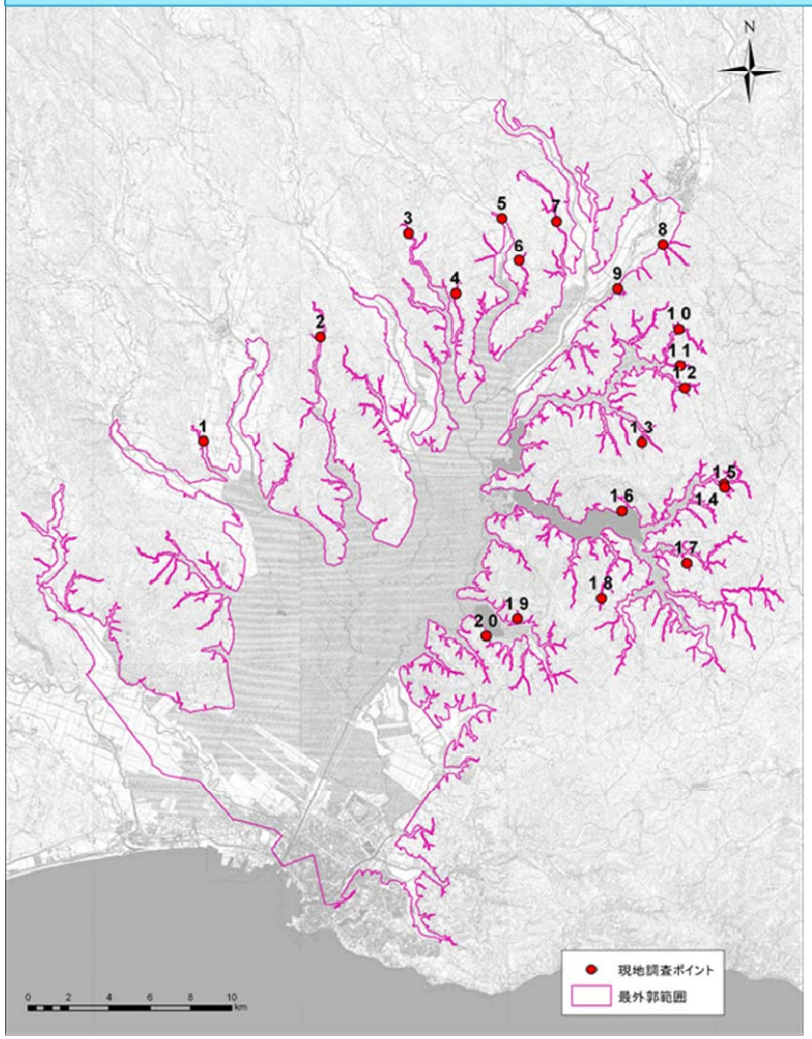
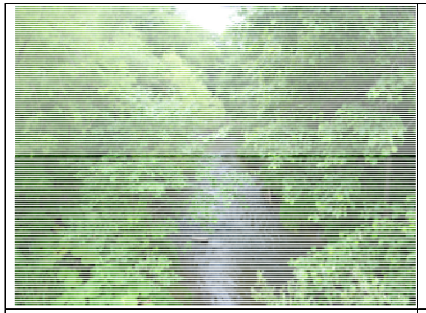


図-現地調査ポイント位置図

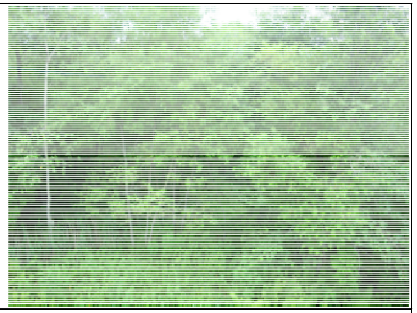
表-河川、湖沼毎の調査箇所数

河川、湖沼名	現地調査ポイント番号
アシベツ川	1
ツルワツナイ川	2
コッタロ川	3，4
旧オソベツ川	5，6
オソベツ川	7
釧路川	8，9
シラルトロ湖	10，11，12，13
塘路湖	14，15，16，17，18
達古武沼	19，20

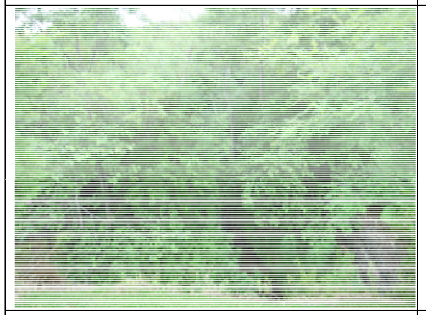
現地調査確認写真の一部



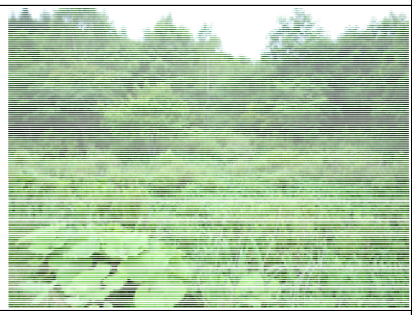
No.1　河畔林



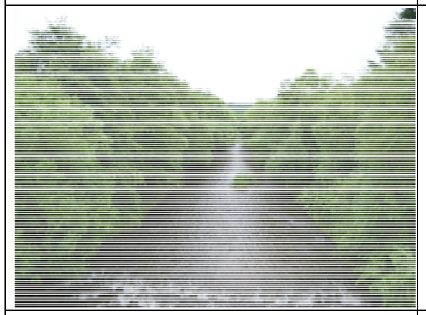
No.2　河畔林



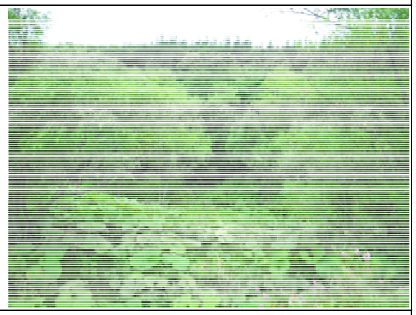
No.3　河畔林



No.4　湿原域

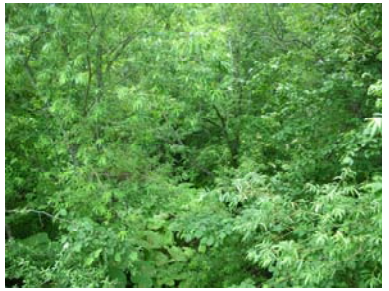


No.5　河畔林



No.6　河畔林

No.7　河畔林



No.8　河畔林

No.9　ハンノキ林

No.10　ハンノキ林

No.11　ハンノキ林

No.12　ハンノキ林

現地調査確認写真の一部

No.13　ハンノキ林

No.14　ハンノキ林

No.15　ハンノキ林

No.16　ヤナギ林

No.17　ハンノキ林

No.18　河畔林

No.19　河畔林

No.20　ハンノキ林